

## 令和3年度

### 石川町議会と保育所保護者会との意見交換会記録

日 時 令和3年7月28日（水）午後7時から午後8時46分まで

場 所 モトガッコ 2階会議室

出席者 第一保育所 鈴木会長、永沼副会長

第二保育所 矢内会長、吉田副会長

野木沢保育所 円谷副会長、佐藤正紀

沢田児童館 江尻副会長、江尻善弘

石川町議会 乾初美、藤島一浩、増子美知夫、瀬谷京子、近内雅洋

議 会 岸浪係長

次 第 1 開会 （挨拶）瀬谷 2 自己紹介 3 議会報告 近内  
4 意見交換 5 閉会

○議員 私どもは、平成22年から議会報告会という名前の下に、各地に出向いていきまして、2班編成で出向いていきまして、今まで年に1回、議会報告会ということで開催してまいりました。10年が過ぎたわけですが、そうしますとやはり女性の参加が少ない、若い人の参加が少ないということですね、区長さんをはじめとした区の役員さんとか、そういう方たちが多くございましたので、若い人の御意見も聞きたいということで10年も過ぎましたので、ちょっと今回見直しをいたしまして、議会報告と町民の意見を聴く会ということで、何年かやらせてもらいました。若い人と女性の参加が少ないと、それで若い人ということで保護者の方、保育所とか児童館とか幼稚園とかにお子さんをお持ちの保護者の方、商工会の女性とか青年、農業関係で認定農業者とか、そういう3つの部門に分かれて今日は3か所で意見を聴く会というのをやりました。

今日は、私たちは基本としているのは皆さんの意見や御提言を本当にざっくばらんにお話をいただきたいと思っておりますので、お茶を飲みながらぜひ赤裸々な本音を聞かせていただけたらありがたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、ここで自己紹介をさせていただきます。

ちょっと副議長がおりますので、ちょっと紹介させていただいて。

○議員 どうも、こんばんは。石川町で副議長をさせていただいております近内です。よろしく  
お願いします。

○議員 皆さん、こんばんは、増子です。よろしくお願いします。

○議員 こんばんは。乾と申します。本日は記録係として記録させていただきますが、どうぞ皆  
さん遠慮なく御意見いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○議員 藤島さん。

○議員 藤島と申します。

○ 改めましてこんばんは。議会事務局の岸浪と申します。お忙しい中御出席をいただきまして  
ありがとうございます。本日はよろしくお願いします。

○議員 私、今日の進行を務めさせていただきます瀬谷京子と申します。どうぞよろしく願  
いします。

事務局の岸浪さんも、それから乾さんもお子さんをお持ちの本当に皆さんと同じ立場の身で  
ございますので、本当に気楽にざっくばらんにフリートークでいきたいと思っておりますので、ど  
うぞよろしく願いいたします。

○議員 皆さん、議員さんとのこういう懇談会みたいなのは初めてですかね。初めて。

○議員 すみません、こちらの御紹介をお願いします。恐れ入ります。御紹介をお願いします。

○ 野木沢保育所の佐藤マサキと申します。自分も会長ではないんですけども、会長代理で来  
させていただいております。自分も野木沢保育所、小学校と役員やって9年目になるんですけ  
れども、いろんな意見、いろんな不満等もありますので、ぜひその辺は聴いていただければと  
思っております。よろしくお願いします。

○ 野木沢保育所から来ました副会長の円谷啓太です。いろいろちょっと不満やいろいろあると  
思うので、いろいろ発言いっぱいさせていただきます。よろしくお願いします。

○ こんばんは。沢田児童館副会長の江尻といいます。よろしくお願いします。

○ こんばんは。沢田児童館の江尻と申します。役員ではないんですけども、今日は参加させ  
ていただきました。よろしくお願いします。

○議員 よろしくお願いします。江尻さんお二人なんで、下のお名前。

○ 江尻カズヤです。

○ ヨシヒロです。

○議員 ヨシヒロさん、ありがとうございます。

どうぞお願いします。

- 皆さん、こんばんは。第一保育所の保護者会長の鈴木と申します。今日はよろしくお願います。
- 石川第一保育所の副会長の永沼です。よろしくお願います。
- 第二保育所の副会長の吉田カズヤと申します。本日はよろしくお願います。
- 議員 どうもありがとうございます。

それでは、今日の皆さんにお渡しした資料を確認していただきたいと思います。意見交換会という1枚のレジュメです。それに意見交換会資料というのがありますか。それから議会の概要ですね。そしてもう一つは一番新しい今日できたばかりの6月議会の議会だよりでございます。この4つをお渡ししてありますが、ございますか。では。

- 議員 [議員より詳細に説明]

- 議員 議会の概要という冊子ですけれども、これは議会の活動の様子がこれで分かります。どういう委員会があってどういう仕事をして、どういう質問して何日議会に行ったかとかですね、その議会の概要が書いてありますので、後で読んでください。

今おいでになりました、自己紹介を。

- すみません。遅れてすみません。第二保育所の保護者会長をやっています矢内です。よろしくお願います。
- 議員 よろしくお願います。第二、会長さんですね。

今始まったばかりなんですけれども、今議会の概要をお話ししました。特に後ろの方の予算の関係が主だったんですけれども、お渡しした資料は4種類です。ありますね。そして、今日はこの意見交換会の資料は本日の子育て関係、保育関係のものを抽出したものでございます。

それでは、意見交換に入りたいと思います。テーマは幼児保育、幼児関係のものですが、特にこの部分これって決めませんので、ざっくばらんに自由、フリートークでいきたいと思しますのでどうぞよろしくお願いたします。お茶を飲みながらどうぞ。

- 議員 今回、我々初めてなんです。この経験は。
- 議員 こういうのって初めてなもんですから。
- 議員 緊張しながら、よろしくお願います。
- 議員 本当に皆さんの生の声を伺いたいと思しますので、よろしくお願います。さっき、いろいろ文句がある、言いたいことがあるっていうことで、どうぞ忌憚のないところ、聞かせてください。（「聞きますから」「いいですか」の声あり）私たちもですね、話を聴いて町に要

望するものは要望するし、私たちが一般質問で町にぶつける内容でこれがいいなっていう場合もありますので、どうぞ忌憚のないところでお話しいただきたいと思います。

○議員 我々議員もその要望があつて質問することも出てくる、そういうことですから、気軽にやってください。

○議員 じゃあ、佐藤さん、早速どうぞ。

○ ちょっと聞きたいことはあるんですけども、石川町で子供子育て宣言っていうのを上げていて、どれぐらい今までそれ変わってきたのかな。乾さんの窓口負担ゼロっていうの、これはすごいと思うんです。今まで一部負担して2万まででしたっけ、それ以上は1回支払って、また役場に来て、また病院に行ってみたいな、何回も往復してその裏では30万円ぐらい俺も払っていたので、もう1回払ってくださいって言われて、その窓口負担がなくなったっていうのはすごいことだなと思っていて、そのほかにもどういうことが変わったのかなというのが結構知りたくて。

○議員 システムとか、そういう意味ですか、言っているのは。

○ そうですね。

○議員 あと補助金とかそういう。

○ そうですね。どのぐらい変わったのかなと。

○議員 どれぐらい変わったか。

○ 内容的にもこういうことやったよ、こういうことやったよというのが結構分かんないこと多くて。

○議員 私の覚えている範囲で今すぐ答えられる範囲で答えさせていただきたいと思うんですけども、石川町って私も10年前に引っ越してきたときにちょっと子育て世帯に厳しい町だなっていう印象があったんですけども、議員になって気づいたことは子育て支援に結構お金はかけています。内容としては特定不妊治療費、これも県でやっている事業なんですけれども、これに町で上乗せしてやっています。

今年4月から、これ一般質問から実現できたことなんですけれども、不妊だけじゃなくて不育症っていうのがあるんですね。これ、実際私経験しているんですけども、流産を繰り返すとか死産してしまうとか、そういった方も治療することによって出産につながるっていうことで、これも県で補助が始まったので、町でもこれに対して上乗せするようになりました。

あとは、今年10月から、今システム改修中なんですけれども、妊産婦さんの医療費がただになります。一部なんですけれども、保険適用分だと思うんです。これが町で負担してくれるという

ことで、今まで妊産婦さんって妊婦加算っていったってちょっと配慮が必要、丁寧に妊婦さんは、歯医者行くのでも花粉症でかかっても風邪で病院にかかっても人より、一般の方より高い金額請求されるんですね。妊婦加算っていうんですけれども、それに配慮して、町では10月から保険適用分については町で、医療費は産後数か月までだと思っただけなんですけれども、負担するようになりまして。

あとは、新生児誕生祝金の支給っていうのも、前は第3子からだったと思うんです。第3子で5万円だったと思うんですけれども、今第1子から第3子まで一律5万円。第4子、第5子で20万円とか、たしか金額は高くなっていたと思います。

あと、産後ケア事業というのもやっています、これはもうどこの自治体でも入ってきているものなんですけれども、産後のお母さんっておっぱいがうまくあげられないとか、結構ひきこもっちゃう方とか悩んでしまう方がいるんですけれども、そういった方向けに助産院とか病院でケアを受けられるというものに対しても補助を出しています。

あとは特別、あと令和元年10月から幼保無償化になっていると思うんです。それに対して町の負担っていうのが、幼保無償化になる前と後では町の負担に差額が出ていて、2,500万円浮いているんですね、町の負担っていうのが。余剰金が出ているので、それを利用して保育士確保緊急対策事業っていうものと、保育園に子供預けないで在宅で育児をしている方向けに在宅育児支援事業もやっています。それは余った余剰金を使ってやっているものがあります。

あとは教育の面では、小中学校の給食費の半額補助ですとか、今の塩田町長になってからは、ロタウイルスとかおたふく風邪についてもワクチン接種で補助が出るようになりました。以上でどうでしょうか。

○議員 いいですか。金額的にね。子育て支援の医療費関係なんですけど、給食費とか、平成28年の決算でそこに支援しているお金って1億1,500万円なんです。それで、これからじゃんじゃん1億8,000万円。今言った内容が給付金、半額っていうのはもう全額でやっているところもあるのね、地区では。

○議員 古殿とか。

○議員 それからおたふく風邪のところは1,800人対象、5,300万円。あと在宅育児支援で1、600万円。なかなか我々見えないんですが、この影には人口減少等施策もあるんですよ。子供を支援してほかの町からこっちに住んでもらうとか、子供たちがこの町に住んでもらいたいということで、けども、これ以上やっても今1億8,000万ですね、これ以上補助してもなかなか子供が増えないというところはあって、今言った子供が産まれたら大体埒は100万円ぐらい、

5人目から100万円（「祝い金」の声あり）それも、50万やった後50万を、分かれた形。そういう払い方をしている。だけど、塙の人に聞いたら、役場に聞いたら人口は、子供の出生率は増えてないって。仮に100万円もらったからって、じゃあ3人の、今度4人産むかってはなんないらしいですね。やっぱりね。ほかの方に聞いたら石川はかなり充実していますよ、少子化、あと高齢化。高齢者にもすごい対策やっていますからね。我々ちょっと見えないんですよ。ほかの町と比較したらどうかっていうことで、2億近くなる。これ国からも来てますね。上乘せして。ほかの地区、ほかの町よりもかなりレベルは高いですよ。そんな状況です。

○ 頑張っているっていうお話あって、非常にありがたく思っているんですけども、町として頑張っている中で何で結果が出ないのかっていう答えですよ。は見えてないんですか。

○ 議員 結果ということですか。

○ どっちにも充実してるって、お金もらっているっていう話だったので。

○ 議員 少子化っていうのは物すごく今進んでいまして、石川町の全体の人口に占める割合にしてもう10%切っているんです、9.何%。福島県で一番多いのは14%、大玉村。子供の数。若い人が多いってことです。石川は、子供が少なくて郡内5か町村で一番低いんですよ。子供が低いっていう町は、若い人がいないから高齢化率が今37%、38%近いんです。大体1%ずつ上がっている、55歳以上は石川で52%ぐらいです。もう限界集落ですよ。準限界集落。55歳が50%以上。100人に石川なっているんですよ。100人に55歳以上が52%なんです。そういうことで、国も今その辺は86万人ショック。出生率、ショックで今年は2021年は84万人、そういうふうに子供が全国的に少ない。

なぜ石川少ないんだ、石川ばかりじゃないんですよ、だから。今年、去年ですね、令和3年1月子供生まれたのが68人、その前の平成20年、21年は140人生まれたんです。だあっと来て100人割って70人割って60、それは何でかっていうと、結婚する人が少ないんですよ。33人しかいないんですよ、結婚。今年、去年33人です。だから、子供が少ない、結婚、何で結婚少ないかっていうと、石川町って高校卒業して19から25、若い女性が少ない。じゃんじゃんじゃんじゃん減っているんです、若い女性が。これ、勤務先もないっていうところがあるようです。一つの問題じゃないんですよ。親も高等教育、いい高校に上げて、大学に上げたい。大学に行く、そうすると勤め先がないんでもう帰ってこない、特に女性がね。男性もですけども。そういう物すごい複雑なんです。だから、石川でここにばんばんお金やったって、なかなか若い女性あたりが残っていかないと、男性40代で結構結婚してない方いらっしゃるんですよ。それは石川町ばかりじゃなくてどこも少子化っていうか、子供が少ない。結婚して子供に

定住の住宅建てて住んでもらう。高齢化をまず直さないといけない。日本全体がそうですね。

○議員 私が思っているのは、結婚したからといって子供を産むっていうのは別の問題になってきているなって思うんです。選択できる時代なので。結婚したから必ず子供を産むっていうわけでもないし、今回児童手当が世帯の収入に応じて減額されるような制度、決まりましたけれども、あれもあれは減額して、代わりに結婚生活を支援するような新しい制度ができたんです。それで、国は子供が増えるって期待しているみたいですがけれども、全然お門違いというか、結婚支援したって子供が生まれるとは限らないって思うんです。

だから、今回の町の子育て支援もそうですねけれども、今お父さん、お母さんが思っているニーズと、町でやっていることが合っているっても限らないなって思うんです。単純に今挙げた子育て支援事業の中でも、利用者が年間ゼロっていう事業たくさんあるんです。産後ケア事業とか、そうなんですけれども、あと全然知られてない。そんな事業があったんだったら使いたかったっていう声も聞こえますし、PR不足もあると思うんです。その辺は今後の課題かなと考えています。

○議員 よろしいですか。

私、ほかの市町村から引っ越してきた人が、石川町ってすごい子育て支援が厚いんですねって結構聴くんです。今みたいに、保育施設に預けない小さいお子さん自宅で見ている人にも、支援事業出しているんですね、月1万円の支援金っていうの出していますし、その前の話では若い人が結婚すると引っ越し代とか住宅取得とか、そういうものに全部補助しているということで、結構厚いと思うんですけれども、それでも子供さんが増えないというのが、いろんな個人の価値観というのがあるでしょうし、なかなかここはどこでも悩んでいるところだと思うんです。

どうぞ何でも。

○議員 別な件でもよろしいです。

○ めんどくさい人と思われる。一方、石川に住んでいて、正直自分が思うのは、遊び場がないんですよね。何で石川に住んでいるのに中島に遊びに行ったり、今なんか暑くて石川のそのプール入りたいんだけど、やっぱりアトラクションがないから古殿行ったり、鏡石、鳥見山のほうに行ったり、いろんな公園自体もないし、アトラクションとかもないし、その辺あれば人いっぱい呼び込めんじゃないのかななんて思ったりはするんですけれども、本当に石川で遊ぶっていったらこのモトガッコの前でちょっと子供遊ばせたり、それでも1日遊べるわけじゃないので、そういうのが欲しいなってすごく思いますね。

- 議員 公園が少ないっていう声は聞きますね。ですから、石川でもモトガッコの中にも外にも遊具を随分できましたけれども、まだまだやっぱり公園っていう感じの林だったり、石があったり、そういう自然の中での公園っていうのが確かにないですね。クリスタルパークはちょっと遠いですね。
- クリスタルパーク行っても、あそこの上、石しかないんです。あそこで飛んで遊んで、もっても2時間とかぐらいしかもたなくて。もっと、場所はあるからもっとなんか有効活用してもっと大きい公園造ったり、鏡石とか滑り台とかあるんですよ。やっぱりそういうのを町で運営していくとか。
- 議員 その公園に何が欲しいですか。クリスタルパークももったいないっていう声もあるので、何かもうちょっと子供たちを連れていけるような、何が欲しいですか。
- 普通の大きい遊具とかでも全然いいと思うんですよ。長い滑り台、中途半端な滑り台とかじゃなくて長い滑り台とか。
- 議員 小さい遊園地みたいなのだとか。、
- そんな感じですね。いろんなものがあって。
- 議員 子供が楽しくなる。
- 子供が自分で運動できたりとかいうのがあればほかからも来るんじゃないのかなみたいな、石川こんなところあるんだなっていうのが増えればいいんじゃないかな、それで。
- 議員 そういうところにお金かけたほうがいいのかな。
- 議員 小さいお子さんの場合は、モトガッコの1階にあるんですが、そこは結構町外の方が親子連れで来ています。確かにそれこそ長い滑り台ついたのがね、あればいいですけどね。ちょこちょこと中谷自治センターの中でもすくすくとかでいろんな子供さんを集めて遊ぶとか、そういうこともやっているんだけど、やっぱりちょっと規模が小さいというか。
- 議員 そうだね、いい意見だね。
- 議員 質問しなきゃいけない。次回あたり。
- 議員 私もその源平山を何とかこうしてああしてって、今トンネルが出来て森林再生事業で間伐とかするから、そこを遊歩道造ったり、ちょっとした公園化とかあるいは一時避難場所ですね、北町の方たちが大変、すぐに裏に行けるとというのが欲しいという声もあるものですから、そういったこと言っているんですけども、なかなか今の森林再生事業と目的が違うなんていって、その議会だよりも書いたんですが、そんなことで石川は山と川に囲まれているところが多いものですから、沢田のほう行くと広いところが、平らなところがあるんでしょうけれど



も。

○議員 結構矢吹とか中島はその地区にあるんですよ、そういうところ。で、嫁さんとか、外に嫁さんに行った人がそこに集まって、何ていうの、あれ、施設とか、こっちのほうはないって。ちょこっと行って、日曜日あたりそこに集まってブランコとか滑り台とか砂場とか。

○議員 私のママ友も1人、公園がないって言っていわきまで引っ越していった方がいました。（「それだけ需要があるのかな」の声あり）大体やっぱり子育て世代が求めているのってこういうことなのかな。

○議員 円谷さん、何か。せっかくおいでになったんだから、どうぞしゃべっていただきたい。

○ あと1個だけいいですか。聞きたいことあって。

この間、二瓶教育課長、保育所に来ているいろいろ話しされていったんですけども、こども園、6月の議会でなんかいろいろ決定する方向だなんていう話だったんですけども、その辺この場合どのぐらい進んでいるかっていうのもあまり分からないんですよ、自分も、いろいろ聴いたり調べたりはしているんですけども、場所も決まりそうだし、でも道が狭いからそれまた広げなきゃいけないのとか、そういうので、どこまで進んでいるのかなという話とか。あと統合もそうだと思うんです。野木沢、今、前までは50人ぐらいいたのが今年度8人しかいないんですよ、野木沢保育所全体で。

○議員 11人。

○ 11人しかいないんですよ、なので、こども園ができる前に、二瓶課長の話だと統合、第一、第二に行ってもらえるようになるかもしれないみたいな、そんな話も出ていたんですけども、その辺どうなっているのかなっていうのがちょっとあって。こども園の話も。

○議員 これ、沢田の例なんだけれども、（「はい」の声あり）中学校統合したでしょう。やっぱり風評ってあって、親たちの。今回沢田の児童館だけ一挙に中学校がなくなったら、児童館に上がって沢田小学校に上がるよりは沢田児童館に入らないで文化幼稚園とか石川の保育所。何でっていうとやっぱり友達、沢田もそうだけど1クラス3人ぐらい。やっぱり子供がかわいそうなんです。こっち残したって、小学校クラブ活動ほとんどない。石川の統合のときに聞いたんですが、テニス部はあるは、いやいや楽しくてしょうがないって、子供たちが。そういうふうに時代が変わってきているんだよね。

だから、野木沢もなかなか難しいけど。沢田は今問題ない。小学校は決まってっからね、いずれ。児童館に残る人、家庭的な問題から。それは継続したいって言うんだけれども、残っ

たほうもかわいそうでしょう。2人とか1人では、やっぱり向こうに友達、なるべく多くつくっていく、そうなるでしょうね。

○議員 友達の件もありますけれども、子供の数が減っていつているのに、すごいスピードで、3歳未満でゼロ、1、2歳を保育園に預ける率ってどんどん上がってるんですよ。待機が出ている。（「待機は出てる」の声あり）そういう状況の中で、今保育士確保緊急対策事業、町でもやってるってさっき言いましたけれども、保育士も足りてないんですね。どんどん統合していかないと、例えば小規模な公立の保育所を、もちろん町も残したいですけれども、例えばゼロ、1、2歳だと、たしか子供3人につき先生1人だったと思う。これが4人ってなると先生2人必要になるんです。統合することによって、6人に対して2人っていう体制が取れる。やっぱり限られた先生をうまく使って、保育の質を維持したままうまく運営していくっていう部分で、かなり今、野木沢と沢田については難しい状況なのかなと思います。あとはやっぱり…

○ すみません、石川町の待機児童、どのぐらいいらっしゃるんですか。

○議員 それほど多くはない。

○議員 ないです。

○ 多くないですよ。

○議員 多くはないですけども、1歳児については数人出ている状況です。

○ ちなみに、新しくそこにもできたじゃないですか。私の同級生がやってるんです。そういう面でも、石川町は結構恵まれているほうなんじゃないかなと思うんですよ。野木沢が例え今度石川に来るとなった場合に、じゃあそうなったら小学校はどうするんですかって話になるんです。（「そうですよね」の声あり）ちなみに、私なんか考えるとわざわざ小っちゃいところに行く意味があるのかなと思っちゃうんです。野木沢の人だって石川小学校に預けたいけれども、送り迎えできないから預けられないっていう親、いっぱいいるんです。

○議員 そうですよね。

○ ちなみに、私の姉は沢田なんですけれども、今年から石川小学校に入れました。やっぱり、沢田も将来的にはどうせ統合になるんだったら子供の事考えて、一年でも早く入れたい。結局、私らの時代っていろんな小学校から中学校に集まるので、みんな切磋琢磨してなんかやってきたんですけども、片方何百人、片方何人ではそれこそいじめの対象（「そう、そうそう」の声あり）なるんじゃないかと思うんですよ。だったら、もっと早くやったほうがいいんじゃないかなと。送迎とかをちゃんとやって。

○議員 そうですよ。

○ 私らも母畑から石川小学校に入ったのもすごく逆によかったなと思います。じゃあ、何で沢田、野木沢、何で入らないんだろなって、そんな地元から小学校なくなっちゃうのが、おじいちゃん、おばあちゃんにすればさみしいって思いますけれども、子供のことを考えてあげないとそれはいけないんじゃないかなって、ずっと考えていました。だから、野木沢の人だとか沢田の人の親の考えと、私ちょっと分からないですけども、私のそばにそういう人がいるので、そうなんだろうなって今回も思っちゃいますね。

○議員 統合って、その統合された、要するにあれだね、町の旧石川の人たちは統合されても通学とか子供の送迎とか、それは影響ないね。その周りが大変。（「そうですね」の声あり）野木沢もでしょう。沢田だって送れない人もいるわけ。

玉川は結構やっている、結局これから、今ちょっと、スクールバスあるじゃないですか。あれはどこだ、鏡石か。スクールバスに乗らせているんです、子供を、乗りたい人は。あとは、玉川は通学できないから、送っていけない人には、少し金取ってんだな、払ってもらって乗ってもらっている。

だけど、石川町はなかなか厳しくて降りたときに事故があったときに責任、それが怖くて、なかなかやっぱ保護者内で駄目なんですね。解決しないと駄目なんですよ。特に財務省なんか大変だからね。じいちゃん、ばあちゃんはあるんだけど。

○議員 ただ、保育所の幼児教育の場合の基本は、やっぱり保育所までは家庭で送るとというのが基本なんですね。つまり、途中でお花が咲いたね、鳥が飛んでるねっていうお話をしながら行って、そしてうちの子は夕べちょっと熱っぽかったですよとかあるいはそういうコミュニケーション、それから今日一日先生が見ていましたけれども、こんなふうでしたよとか元気でしたよとかって、そういうやり取りですか、そういうものがまず必要だということなんですね。それで、ただバス来たからはい、乗せて、はい、ありがとうってね（「なんないね」の声あり）うん、そういうことじゃなくてっていうのが基本だっていうことなんですね。それで、やっぱり、小さいお子さんは本当に小さいお子さんをバスに乗せるっていうことが果たしていいのかどうかっていうことですね。いろんな問題出ますね。

○議員 解決してる町村もあるんだよね。そういうのね。

○議員 当然、バスには保育士さんをきちんとつけて、そして安全を確保して。

○議員 文化幼稚園みたくあんな感じにすればいいんですよ。ちゃんとついてね。近くまで送ってくる。

○議員 新しくできるこども園についてなんですけれども、今基本構想をつくっていて、子ども・子育て会議っていう組織を活用したり、新たに準備委員会を今つくっているところです。子ども・子育て会議についてはメンバーも変わってくるので、今、新しい方々、現役の保育士さんとか、そういった方から御意見いただきながら、今計画している段階なんですけれども、決まっていることとすれば、予定地はそこですね。ということと、規模は200人で。あとは障害のある子ども、程度によると思うんですけれども、預かれるような体制にする。民間とのすみ分け、役割分担をして民間でできないこと、文化幼稚園でできないことを町立でやっていくような役割分担っていうのも今検討しながら計画しているところです。

進入路については新町、商工会の入り口、あそこから一応入るってのは今のところは計画しています。

○議員 当初はね、令和4年開園っていうことだったんですけれども、一昨年の台風の被害で大分保育所あちこちでダメージを受けまして、さらにその基本をもう一度見直そうということでちょっと遅れていまして、今そういう状態なんです。

ただ、やっぱりなかなか石川も山と川の間に通りがあるということで、今一番有力視されている場所は旧々石川小学校のところなんですけれども、問題は進入路なんです。ですから、商工会側、モトガッコの駐車場からなだらかな進入路を造るとか、本来今ある南町とか荒町とか町の商店街の人たちが南町から入る昔のコクヤさんからあの道、階段がありますね。小学校の。あれを何とかあそこを通してほしいっていう要望が出ていますけれども、なかなかあそこも狭いので難しいですね。こっちも山野辺薬屋さんのところから入って商工会の橋のところまで来ている人ですが、あそこも信号ありますけどね、手押しの。あそこもそれほどひどい道ではないんですけども、なかなか進入路が難しいですね。

○議員 子供が68人とか70人、60人実際切る人ですよ、きっと。石川町全体で。だから保育所もまた、統合したのはいいけどまた小さくだんだん。

○ 今、野木沢は何人いるんですか。

○ 野木沢小学校が、小学校、保育所が今11人。

○議員 沢田より少ないですよ。

○議員 沢田は11人だね。野木沢は8人ですか。

○ 沢田は。

○ 11。

○ じゃあ、8、8人ぐらい

- 議員 野木沢は絶対数が多いのね、ただ行っちゃうだけでね。
- 小学校全体だと86人。それが石川に統合した場合に、やっぱりクラスがないという話になって。なんか、野木沢ってやっぱり多分石川の人から見たら独特だと思うんですよね。野木沢って独特じゃないですか。ちょっと離れていて、よくこう、ばちばちやってるような感じじゃないですか。野木沢と。だからなんか、多分野木沢もどこもそうだと思うんですけれども、地元愛じゃないですけれども、めっちゃ強いつていうのもあって、自分も野木沢で産まれて育て、学校なんかそういうのは残したい派の人間で今動いているんですけれども、やっぱり中にはさっき話あったように、いずれ統合すんだから統合しちやいなよという人もいますし、今ちようどそれが半々ぐらいな感じなんですよね。だから……。
- 議員 こども園の場所ってどこがいいと思いますか、今頃言つて。（「スクールバス」の声あり）。（「ね、ね」「そうなんです」「使えないのかなと思つちゃう」「そう、そう」の声あり）
- バスがないつていうけど、満タンじゃないです、見たら。野木沢にも中学校、石川中学校のバスが行っていますし、沢田にだつて行つている。別にそれが50人乗りでぎゅうぎゅう入つてゐるかつていつたら全然（「全然」の声あり）使えるんじゃないかなつて思うよね。
- うん、うん、そこは全然使えんじゃないかなつて。
- だから、選べる選択つていうのもあつていいんじゃないかと思つてね。残したい人は残したい。それは、でも100%それがみんなだつたらいいけれども、中には行かせたいという人もゐるんだつたら、それはじゃあ。子供は小つちやいから選択できないけど、ねえ、親の選択つていうのはあつてもいいんじゃないかと、俺は思うんですよね。何でかんでゼロか100かみたいな。同じどうせ石川町なんだから、案外そういうこと検討してくれてもいいんじゃないかなと思つています。
- 議員 スクールバス、がらがらだからね。
- まあ。行つてないなら別ですけど、行つてますから。
- 議員 国のあれが違つとかそういう。
- 議員 スクールバスつていうのは現状、ほとんどの学校がそうだと思うんですけれども、統合を前提にしてる、子育て支援としてのスクールバスの事業ではないんですね。私は将来的には子育て支援としてのスクールバス事業つていうのは必要だと思うんですけれども、現在町でやつている事業つていうのは、統合つていうのを条件にしたスクールバス事業なんです。統合したところにしか行かないんですね。ある程度その距離は小学校で3キロ以上、中学校で4キロ

以上、町独自で設けてはいるんですけども、例えば長久保方面、野木沢、先ほどおっしゃったように空席があつて、けれども、乗ってこれないっていうのも昔から統合主体の場所ではないので、乗れないっていうのがやっぱりどうしても条件になってしまうのと、でも野木沢で空席があつても沢田方面に空席がなければ、空席があるほうだけ乗せるっていうのも、町の事業として平等性っていうものを考えるとできないっていうことになってくるので、今後子供の数が減ってきたり、いろんな条件が変わってきて、今回千葉県で交通事故があつたじゃないですか、通学路で。やっぱり今の保護者ってスクールバスこそ安全安心って考えているんですね。今、国でも国会議員の何人かの方々は、もう誰でもアメリカみたいにスクールバスは乗せちゃえばいいじゃないかっていう動きをしている方もいるんです。今後、ちょっとどうなってくるか分からないですけども、私はこの町においても子育て支援の一環としてのスクールバス事業っていうのが今後広がってくればいいかなと。ただ、今1億円かかっているんです。スクールバス事業。これ以上、町では負担できないっていうことなので、その辺も課題だと思います。

○議員 1路線で1億でしょう。

○議員 全体で1億ぐらい。

○議員 1路線で50万って聞いてます。

○議員 年間だよ、年間。

○議員 月50万なので年間だとやっぱり600万とか。1便増便するだけで月50万。今のところ増便はできないって教育委員会から言われています。

○議員 石川町は広いからそれ石川町に住んでる人はいいいよ、前から。在の人だと統合されたときにどうすんだっていう、それがやっぱり住民税、みんな同じく払っているからね、みんなね。山橋あたりはやっぱり親子して須賀川辺りに子供連れて、勤めで。子供の冬なんか。送迎できない。

○議員 それも言われましたね。統合が条件なので、南山形小学校の子たちバスで来れるんですけども、北山形ってもとから石川小学校なので、バス出てない。でも、10人ぐらい子供いるんですけど、全員9年間、車の送迎なんです。あの道を歩いて通えるわけがないんですよ。一応福島交通さんともいろいろ話合いをしているんですけども、なかなかあそこにバスを出すっていうのが今できていない状況です。

○議員 法律でなっているんだよね。簡単じゃないんだな。

○議員 国からの補助が小学校で4キロ以上、中学校で6キロ以上の子供に対してしか来ないん

ですよ。それと、今3キロ以上、4キロ以上にしているじゃないですか。小学校と中学校に。その基準、国との基準の差額っていうのは町が単独で負担している部分なので、全然補助だけでは足りてない状況なんですよ。

○議員 それ、通学支援なんですけれども、やはり路線バスを使っているところもありますし、そういうところの定期券を出していますよね。そんなこともありますので、それから通学バスの管理費っていうのがありますが、これ、まだ令和3年度のあれは決まりませんが、2年度で9,635万4,000円かかっているんですね。だから、1億くらいのね。ただね、一旦事故があったときっていうことを考えると、また難しい問題がありますけどね。都会ほど交通量があるわけでもない。

○議員 やっぱり問題として私が要望を受けているのは、小学校で6年間バスに乗っていた子、3キロ以上で乗っていた子が4キロ未満で今度中学校に入った途端、歩けてと言われるんですよ。6年間バスに乗ってた子が、中学校に上がったからって歩きますかっていったら、やっぱりそれはちょっと難しいですし、自転車通学もなかなか安全面から大分減ってきている状況なので、やはりそこは今回の沢田の統合とか、今後、野木沢について統合の機会があるときに見直すチャンスだと思っています。

○議員 そういう声が多くなるからね。じいちゃん、ばあちゃん送迎できないって出てくるから。

○議員 ぜひ声を上げていただきたいなと思っています。

○議員 昔みたいに若い、俺らの年代若い。俺たち。大丈夫だったけど。

○議員 保護者の声、住民の声っていうのがすごく大事ですしね。

○議員 そうね、社会変わってきているんだから変えてもらって、しょうがない金ばかりかかって。

○議員 財政のこと。

○議員 一番財政です。要望は聞きたいです。無理をすれば後の世代にかかっていっちゃうし、やっぱそこら辺は本当に皆さんの要望を聞きたいですけれども。

○ 1ついいですか。全然関係ないんですけれども。

財政、もちろん大事だと思うんです。私、詳しくは調べてないから分かんないですけども、松多屋さんの跡地、あれを町で何千万で買い取って何千万で改修して、民俗資料館ですか。そういったものって1円も生まないって私たちは思うんですけど。みんな思ってると思うんですよ。だから、そこにお金をかける。お金がない、お金がないって言うのに、そこに

1億、どうなんだろうなって多分思ってるのが、町の人が多いんじゃないかと思うんですけども。

○ まして一等地って思うんです。

○ そうです。

○ 何でっていうかね。

○ 決して新しい建物じゃないし。

○議員 京子さんでいいです。松多屋の件。

○ 道の駅だってそうです。（「道の駅もそう」の声あり）いろいろ地元の名産とかもないのに、道の駅建てます、決まりました、じゃあどうすっぺの話になっちゃうじゃないですか。建てたいんだけど、どういうのがいいかな、どういうのがいいかなっていうのをいろいろ模索して、それで決まるなら分かるんですけども、建てますを前提にこっち側が何も別に。

○議員 やっぱり箱物行政はね、本当は経費のかかってくるやつだから、経常比率がここまで上がってきてるのに、そこら辺考えなきゃいけないと思うので、私もさんざん一般質問でかなりやったんですけども、執行部のほうがなかなか。

○議員 いいですか。話は違うんですけど。じゃあ、今後過疎化していく石川ね、過疎指定ですからね、今ね。高齢者率が、年寄りが多いでしょう、子供が生まれないでしょう。このまま例えば財政がないから、じゃあもう何もできませんよって10年も20年も行くのか。もし何かとって大体国の補助金が半分ぐらい出るんですよ。出す。成功しているところって国の補助金を使いながらいろんな施設を造っている、人が集まってくる。石川はだんだんこのままいくと、人が恐らく来ないですよ、やっぱり、若い人が住まない。石川町は土地は高いし、中島あたりに行っているでしょう。なんか考えていかないと駄目なんだよな。分かるんですよ、財政的な問題。じゃあ、何もしないのか、このままっていうところがあるんです。

○ いや、決して箱物が悪いって言ってるわけじゃないんです。どうやってそれを生かしていくかだと思うんです。

○議員 中身の問題ですよ。

○ 一番はそれです。

○議員 そこがうまくいけば誰も問題ないと思うんですけど。

○議員 ただ、道の駅の構想って分かんないです、財源幾ら使えるか、どのぐらいの造るのか。町長はそんなに建物はそんなに高いのは要らないと言ってるけど分かんない、見えてないから。



- 全然見えないですよ。
- 議員 だけだね。このままでいいのかいって何もなくて、遊び場もなくて、そういう金かかるからって何もやらないで、このままいく。そこがきついんだね。
- 議員 議員の中にもいろんな意見あんです。話し合っているいろいろそれで一番いい方向を見つけて出そうとしてそのために議論してるんですけども、ただいかんせんやっぱり我々に執行権ないもので、議員ていうのはあくまでも予算に対しての審議するくらいで。
- 議員 否決できるな、予算は、否決はできるけど。
- 議員 そこまで上がってこないとね。できないものですから。
- 議員 優先順位としては認定こども園が先だと思うんですけども、なかなか。令和6年度に開園したいという話があるんですが、さっき言った現状としてはね。
- 議員 認定こども園と浄水場の問題。
- 議員 まず水ですよ。
- 議員 そして、ちょうど60年ぐらい、いろいろ造ったやつが老朽化してきているもので、今度インフラさ金かかっているんです。そうすると、経常比率が90%近い、今年は90%なったのかな、まだなっていない。（「88」の声あり）88.2はあれだよ。
- 議員 経常比率の予想って80%なんで。
- 議員 令和元年度で88.2%だよ。
- 大して上がってはいない。若干上がってますけれども。
- 議員 そこらまで、でも普通の家だともうこれは普通の会社だとやばいと思うでしょう。この数字。
- 議員 今、大体行政は95%くらいのところまで95から90%いった。そういう時代なんだ。税金と補助、町税が使えない。それは行政って倒産しないからね。北海道はあったけど。
- 議員 そういうことで、失敗だになっていうところはある。
- 議員 削られるからね、今度金がないとね。
- 議員 さっきのこども園の件については、今の進捗状況としてはそういうわけなんですね。だからまだ予算とかそういうのはあれですし、決定にはなっていないということですね。
- もっといろんな意見をうちに振ってもらいたいですね。決まりました、そこまで行く間に。いろんな自分たち保護者とか、そういう人たちの意見はどんどん聴いてもらって、がわだけつくっても、こども園造りました、人が来るわけじゃないと思っているんで、質だと思っているんで。

○議員 そのこども園については保護者の皆さんとか保育士の皆さんとか、そういう方対象に相当意見を聴いています。それぞれの立場から相当意見を聴いていますね。基本計画の中にそれがずっとあるんですけども、いろんな意見が出ています。いっぱい出てます。ですから、そういうものをやっぱり配慮しながら。

○議員 今日はそういう会だからね。俺たちは聴く会。

○議員 聴く会なの。

○議員 それは行政に。

○議員 ざっくばらんに何でも聞いていただけるとありがたいです。その中で、我々も協議しながら、これは生かされるっていうのを町に、行政側に言うべきだろうっていうのはこれから精査して町側に持っていきますから。

○議員 過半数取らないと予算が成立しないんだ。町長が何言ったって、議会否決すればできない。それはやっぱり町民の声を聞いて、やっぱり。

○ 次、立候補すればいいのに。

○ やりますって言って。

○議員 あまり批判的になったら駄目だよ、これね。やっぱりね。具現化とか前向きな話でいいよね。

○議員 絶対に夢がなきゃな。

○議員 そう、確かに。

○議員 そうだね。

○議員 さっき言ったとおり、費用対効果じゃないけれども、お金かけたらばそれに見合っただけの効果を出そう、そういうあれじゃないのかな。それが一般的に当たり前なんだけどな、普通の会社だと。なかなか行政っていうのは難しい。

○議員 子育て支援に2億円使っている。子供が増えないんだ、そして。だから住宅施策のほうがいいんじゃないかって。玉川そうだって、20代。

○議員 さっきね、出たとおりさ、これだけお金かけてるのに効果はどこまであるんですかって聞かれたけどさ、それが本当の一般的な答えだと思います、質問だと思います。普通の会社なら絶対に言われるもんね。やって、お金かけたらば、お前どこまで効果上げたんだって。出せって言われるの当たり前だから。そこら辺だと思いますよ。だから、いい意見どんどん出していただいて。

○議員 そうそうそう。

- 議員 我々もこれはいいっていう、これは将来的に見込みあるっていう案はどんどん取り入れますから。
- 議員 公共事業ってね、難しいと思ってもやんなきゃなんないっていうこともあるし。
- 議員 民間と違うからね、これやんないって言えないからな。
- 議員 もうからなきゃやめるっていうあれでもないし。
- 議員 あっちにもいい顔、こっちにもいい顔しなきゃね、行政が。
- 議員 進捗状況はどんどん住民の皆さんに公表して提示していくっていうことですよ。
- 議員 今日、男性が多いから結構いい話だよ。女性だと子供の話ばかりになるかも分かんないけど。
- 議員 認定こども園の今度新しく子ども・子育て会議の組織が変わるってさっき申し上げましたけれども、そのメンバーっていうのは実は今月募集してたんですね。そういったのもやっぱりあまり知られてないと思うんですけども、今回2名募集していて、実際子育てサークルからも応募してもらってる状況ではあるんですけど、そういったものですか、あとはやっぱり今やってる町民の声を聴く会ですか、町長がやっている。あれもやっぱり平日の昼間だっていうことで、今回、今日来ていない菊地議員がもうちょっと子育てサークルとかいろいろ団体とか企業とか、話聴いたらどうなのっていうことで、今度から出前講座という町長が出向いて、皆さんの町民のお話を聴くっていうのも、前向きに検討しておりますので、ぜひそういった機会を活用していただきたいなと思うんです。
- 議員 町長、対話の日なんてね、平日だけの時間があったら出向いて行ってね、それこそざくばらんにいろんなことを話ししていただけたらいいと思うんですね。
- せっかく各地区って自治協議会があると思うんですけども、私らも母畑でもずっと言っているんですけども、そういうところにもっと落とし込んで行ってほしいと思うんですね。そういう案内があるんだったら、自治協議会月1回ぐらいのレベルで集まってますよね、そういうところの場あるんだったら、そういうのを活用して町の議会の方から言ったら、そういうところに言ってもらえれば、せっかくの集まり、そこで言えばみんな募集かけて集まるんだけども、そういう集まりはやっているわけなので、そういうところに落とし込んでいったらいいんじゃないかなと思うんですけども。
- 分かんないよね、きっとね。分かんないことのほうが多い。
- 議員 確かに、町がいろんなものを発信するっていうのは、広報いしかわぐらいしかないですよ。そうすると、月1回なんですよ。だから、例えば町の新聞みたいなのはどんどん出

すけど必ずしもあれは民間の新聞であるし、みんな取ってないし、町として発信するものって  
いうのは広報いしかわぐらいしかないのですね。月1回ぐらいになっちゃうんですね。

○議員 広報いしかわだって発行部数が100行っていないんですよ。数はこれはまだ秘密会議だから  
言えないんですけども、100じゃないんです。（「え」の声あり）100、100じゃない。だ  
から、町民に周知できる数発行してないの。

○議員 あれでしょう。全世帯分。

○議員 隣組入ってない人いるから。

○議員 やっぱり、情動的なものだと、前と違うでしょう、インターネットで。

○ 隣組に入っていない世帯については配布ができないっていうのがあるので、町のホームページ  
で全て公開はしています、そういった人向けに。あとは窓口だったり、各自治協議会に、自治  
センターですね、広報紙なり情報は分かるようにしてあります。

○議員 自治センターに置いてある。

○議員 玄関に、持ってってくださいみたいに並んでる。自治センターに。持っていかない。

○ 俺は入ってますけれども、入ってない人こそ持ってかない、見ない。

○ 興味ないですからね。

○ 興味ない。勝手にやってっていう感じはある中で、幾らホームページで頑張っているって言  
っても、まず開かない。違うユーチューブ見る。困ったら見てほしいような、ここに全てが書  
いてありますぐらいの、困ったらページをっていうなんか最後の手段ではないですけども。  
こういうことしたいんだったら、そのホームページを見たら、誰々、役場の中のどの課に行っ  
たら、こうつながってとか、ひもをいっぱい垂らしておくみたいに、すぐに行けたくらい。例  
えば犬が死んでいます、誰が片づけるの、犬って、ぱぱって町にやったら、ああ、犬の片づけ  
やってくれる。身近なことって多分癖づけてみんな携帯持っているから、町で何かあるとあ  
あ、崩れている、知らねっていう人と、崩れてるよってどこかに言ってやると町にすぐ連絡が  
来て、何課から。すぐじゃないと駄目なんですよ。どこかに許可を得て誰々、組長さん何と  
かさんに行ってから役場に行くとかだと、なんかそのうち区長見回ってきてやるよ、いいんじ  
ゃないっていうんじゃない、きちっとして来るっていうタイムラグないホームページがある  
と、もっと役場を頼るっていうか、町を頼るんじゃないかなと思います。崩れれば組長さんに  
言ってから、区長さんを通して、そして役場に行ってから見に来て、その流れということがあ  
って、今の時代なのに。まして若い人なんて区長さんに声をかけるとかやらないです。素通り  
していく。

- 議員 区長も知らないっていうケースも（「います」の声あり）区長さん誰か知らないっていう。
- あと民生委員の人も知らない、保育所上がるようになって、民生委員初めて知ったんです。人は知っていましたが、民生委員だったんだと。ちょっと大きくなると分からないですけれども、それをもっと分かってほしいのは、多分20代だと。あまり関わりたくないって思って、まして自分のやりたいことだけやっているっていう子たちだけの、そういう人をすっところ携帯を使って取り組める場所であればいいんじゃないかなと思うので。
- 議員 今の時代だから。
- 陳情書上げてはあまりやらない。
- 石川町ってSNSの発信遅いですよね。（「遅いです」の声あり）何もやってないですよ。ほか見たらインスタとかやってます、いろいろフェイスブックはそうかもしれないですけども、いろいろやってます。町が動いてるんですよ。（「そうです」の声あり）石川町、ホームページしかないじゃないですか。
- 議員 一応、SNSもやっているんですけど、それを更新する担当職員が今いないので、例えば桜祭りやりますよっていう発信も2週間前っていう状況なんです。インスタとか。
- 桜祭りをこういうやっているって知らなかったと思うけど。
- やってんだ、みたいな感じ。
- 議員 そうなんです。
- あんないいところがあんのに、それをほかに発信できれば絶対来っと思うんです。
- 議員 結局出店者の人も。
- 町民生活課じゃね。
- 議員 そうなのかな。
- 議員 江尻さん、何かございますか。でもお二人いらっしゃる。
- 先ほど、佐藤さんが言われたようにSNSの発信、すごくいいなって思っていて、今やる人がいないっておっしゃっていましたが、例えば石川でもJCとか青年部とか、そういう団体あって町のために頑張っている若手の経営者さんとかいらっしゃいますし、そういう最先端のこと学んでいる方多いと思うので、そういう方々に力添えをいただくような、町としての、やればもっと一体感が出て町の意義とか行政の案内とか、そういうのもスムーズにいくんじゃないかなって感じます。やっぱ、ほかの町村の情報を見る機会が多くて、古殿町とか役場の職員の方々が町の風景写真撮ったりとか、やぶさめくんと一緒に写真撮って、こ

ういう桜が見頃なんで見に来てくださいとか、町の案内したりとか、そういうのやったりするんですね。あと、古殿だと町おこし協力隊の若い方来て、こないだもふくしま Show かな、テレビで取り上げられたりとかしているんで、そういう町のアピールって石川って少ないかなって。

○ 募集かけたけどいないんですよね。石川町地域おこし協力隊みたいな。

○ 議員 地域おこし隊ってまだ、そういう、いないんです。

○ 議員 応募者がいない。

○ 議員 映像とか（「公募している」の声あり）発信できるような即戦力探しているんですけども。

○ 玉川は5人ぐらいいますよね。

○ 議員 8人。

○ 議員 8人もいますね。

○ 8人、すげえますよね。古殿にもいますし。

○ 議員 それで、ミッションが終わってそこに定住して結婚してっていう方がいらっしゃる。それが地域おこし協力隊の一つの目的でもあるんですけどね。

○ 議員 あと、ノイローゼになって帰る。

○ 議員 そうね、帰る人も。

○ 議員 そう、期待されちゃってできない。

○ 広報で案内とかいってもそんなに見る人ってお父さんお母さん世代は見ますけれども、私ら世代の人見ないので、そういう SNS で流していったほうが見る機会も多いし、地元の方々の声を吸い上げるとなれば、アンケートみたいなものをネット上でつくって、気軽にできるようにすれば、簡単にちょっとやれますし。

○ 議員 今、インスタでもできますよね、アンケート。

○ 幼稚園とかお便りの中に QR コード載せてびってやって回答くださいって言われれば、やると思うんですよね。

○ 議員 これからそういう仕組みだよな。

○ これからの時代がそうなんです。

○ 議員 高齢化が進んでいるからなかなか、難しいね。難しいわ。

○ 議員 きついな、俺らの時代は。

○ なので、そういうきつい方々は無理せず、そういう J C の方々とかそういう方々に御協力を

いただくようなことすれば。

- 議員 年寄りが悪いけど紙媒体でね。無理にいきなりはね。（「いいでしょう」の声あり）
- 議員 私たちも今日は農業と商工会関係と幼児保育関係のやってるんですが、だんだん自治とやったりね、いろんなことやっていきたいと思っていますので、お話を聞きたいと思います。ありがとうございます。
- 江尻さん、いかがですか。義弘さん。
- 一也君が今言いましたけれども、ほかの地域は白河なんかもJAさんとかライオンクラブさんが一生懸命、若者たちが一生懸命集まって話しして、いろんなイベントとかやってるんですよ。須賀川もそうです。石川ってほんとイベントがないです。
- 議員 特にここんところ。
- コロナだからね、しょうがないっていうのはありますけれども、でもイベント、石川少ないと思います。そういったものを年配の人をお願いするんじゃなくて、私たち若い者たちが動いて一生懸命やればいいんじゃないのかな。
- 議員 なんか案、出してもすぐ潰されっちゃうもんね。
- そうそう。頭が固いっていうのか。
- 議員 逆にだからお願いしますっていう、投げたほうがいいんじゃないですか。
- 議員 若い人で仕事が忙しかったり家庭があったり、いろいろあるでしょうから、ねえ。
- 多分大体ここに来てる人って興味ない人は来てないですよ。結局、何でもかんでも若い人でもやる人は何でもかんでもやる。やんない人は何にもやんない。
- あれはすごい。
- 何にもやなくていいんですかみたいな。そういうレベルな人ですよ。この人は何でもやってくれるからもう何でもやるみたいな、そういう感じでもんね。
- 議員 できる人は何でもできっからちよっと何でも頼むみたいになっちゃう。
- そうそう。不公平感がすごえって思っちゃう。
- そうそう、あれもやってこれもやって。
- それもやって小学校役員やって、そんなにできないよねって思うときあるもんね。
- 議員 ところが。
- 議員 書類作ってもらうのは、暇な人じゃなくて忙しい人、むしろ忙しい人。
- 役がすごいんですよ。やっぱ、若い人の中でも。ほんとに。
- 議員 確かに忙しい人に頼む。

- 議員 そういう人が引っ張って行って、なかなかそこについていけない人もいるね。
- 議員 石川町も情報を発信しないと駄目だな、いろいろ。
- 議員 永沼さん、何かありませんか。永沼さんじゃない、鈴木さん。
- 今、イベントのお話とかありましたけれども、イベント、子供が参加できるイベントもあっていいんじゃないかな。確かに、モトガッコとかでもやってるかもしれませんが、もうちょっと何ていうんですか、拡大したイベントというか、子供中心としたイベントがあるといいんじゃないかなって思います。
- 子供が出るっていうことは親も出るっていうことですから。
- 議員 そうですよ。
- 今、コロナでどこも出かけられないっていうことがあるんですけども、ちょっとかわいそうだなってあって、何かそういったものがあればなっちは思っています。
- 議員 そうですね。小学生以上とは結構ボクチャレとかの何とか、鉱物何とかとかいろいろやってるよね、小さいお子さんのはたしか保育所単位とか幼稚園単位とかでイベントっていうのはあるでしょうけれども、確かに町全体でのそういう子供を対象にしたイベントっていうのは少ないかもしれませんね。親子で遊べるイベントっていうのは。早くコロナが収まってくれると。
- 議員 地域おこしっていうのはそういうところ始まるんだと思いますね。やっぱりそういうイベントやって、隣近所とか友達とか増やして行って、やっぱりそうやって町おこしっていうのができてると思うんです。自分もなあ、昔野木沢活性化しようっていうので、マサキらバンド呼んでな（「お世話になってます」の声あり）イルミネーションとバンドやったんだけど。
- 駅前だね。
- 議員 高校生のバンド、高校生の人らに友達がかっついてくるから、親も結構来るんだよね、わがの息子らがあれだっっていうので。そういうので結構町おこしやったんで。俺の場合、町おこしてさみしいから何かやろうっていうので、人集めてなんかやって人とのつながりを持っていこうかなって。
- 議員 私の中田なんですけれども、いろいろいろいろやりました。森の音楽会だとか。
- 議員 昔の話になるから。
- 議員 そうだね、ごめんね。
- 議員 前向きにいきましょう、前向きに。
- 議員 今、子供もいないし若い人もいないから、そういうことができなくなっちゃって困った



もんです。ごめんなさい。ちょっと脱線しまして申し訳ありません。

○議員 そういうの大事だと思いますけれども。

○議員 そうなんですよ。

○議員 そこから広げていって活性化していくっていうか。

○議員 矢内さん、どうですか。

○ そういう意味でいくと今のイベントやるっていうの、何やんのっていうと、これ何か分かんないよねって、誰やんのも分かんないよねっていうのでいくと、僕も音楽、たまたまやってるんですけども、音楽祭あるんです。あれ、夕方、今コロナでできてないんですけども、まあ土曜日の5時から8時ぐらいとかになるんですけども。

僕は吹奏楽でもう40代ですけども、ただ関わっているんですけども、10団体くらい来ますかね。あれなんかいつも寂しいなと思うのは子供がいないんですよ。僕、音楽つながりで泉崎とか白河とかに行くと、朝から1日ホール、第1保育所、第2保育所とか何とか小学校って小学校とか大概に選抜とかが、町で高校が2つあるというのも5市町村でまずないことなので、まず高校生も呼ぶ、中学生も呼ぶ、小学生も呼ぶっていう、最初はやりづらいから強制に学校に頼んで集めてもらわないと、好きな人だけっていうのは結構難しいと思うので、せっかくあるのに、2つずつぐらいありますよね、まずね。なので、母衣旗祭りとぶつかるから嫌なんだよって1回聞いたことあんだけど、母衣旗祭りがどうなのかなっていったときに、そうやって保育所から小学校、中学校、高校、一般、バンドやってるっていった人たちとかも集められるイベントとして、クリパで順繰りやるとか、場所が何となくあるんだからできるんじゃないかなと。音楽だけじゃなくてもいいです。ダンスのチームとか、それは誰がそれを引っ張り上げてイベントにするかが問題だと思うんですけども。

○議員 そうですよ、そこなんですよ。

○ ただ、1回乗せれば動き始めれば、始まるまでは大変だと思う。やめるのは簡単。なんか、うちらも文化協会もあるので、何かてこ入れじゃないですけども、いつものメンバーでやっているのも。それも高齢化してきていますから、若い人も子供もいないので、小っちゃい頃から、高校に行ったらああいうのがあるんだとか、大人になったらこういうのやってるんだとかいうのを見せられる意味でいかないと、いや白河に行ったらあるよねって言ったら白河に引越す、泉崎に。そういうのを町でやっている、ああ、続けたかったのがあるんだよね、音楽とか文化の面で。それも一つ。あと、体育会、体育の運動会、それこそ学石というビッグネームがあるので、そういう体育イベントみたいなのが。2つぐらいあれば、ちょっとイベントとし

てつくって、いいなみたいな。

○ この場の意見がここまで広がるとは思わなかったの。

○ 議員 広がって。

○ そこまでの意見を用意してなかったんですけども、私の家の子供がランバイクやってるんです。イベントで小さい子供のレース関係やると、大人が子供についてくると思うんです。それは一部なんですけれども、みんながみんなランバイク持ってるってわけじゃないので、そこまで強くは言えないんですけども、須賀川を拠点にそういうチームがありまして、そこでこの間もブルスタってあるんですけども。そこで須賀川のフットサル場なんですけれども、室内の。そこでレースやったんですけども、そのときもやっぱり、その福島県とほか、新潟県とか栃木とか宮城県とか、というのは今コロナ禍なので、福島県沿いのメンバー集めてそこでレースやったんですよ。そのときに、子供だけで60人ぐらい集まってイベントやったんですけども、そのときも大人はついてくるし、そこでテニスやったりとかしたので、子供たちは結構満足に楽しくやってたんですけども、今回コロナ禍なので、安全対策をしてレースをやりました。

○ 議員 レース場はどこに行っています。いつも。

○ 練習ですか。

○ 議員 練習も含めて。

○ 私、練習させてるのはそこで練習させるんです。今でも家族いないので母畑の1家族と私だけなので、知られてないですよ、そこまで。本当に一部だけなので。須賀川だと10人ぐらい集まってやってるんですけども、ほかに会津だったりとか。

○ 議員 子供興味持たせるっていうのは、枠を広げられる（「そうね」の声あり）そういう、何っていうんですかね、作っていけば一番いいんだと思うんです。

○ 私、今年母畑子供育成会の会長やってるんです。それで、今週の土曜日に八幡屋さんのほうでサマーエンジョイっていうのを開催するんですけども、実際今年コロナ禍でみんな来てくれないんじゃないかと思ってたんです。そしたら、小学生以下、母畑に小学生人数40人ぐらいしかないんですけども、7割以上で参加してくれます。結局、コロナ禍っていても会社に行くのも危ないですし、小学校だって危ないの一緒じゃないですか。子供たち限界に来てて、子供だけじゃなくて親も子供1人に対して2人参加してくれるっていう家族、いっぱいいるんですね。やっぱり、コロナっていうの言い訳にしたら、何もできないわけです。町としてはもうちょっとイベントとか、そういうものをやってもらわないと、どこにも出かけられない。ス

トレスばかりたまってしまう。そういうのが逆に旅行行ったりとか県外行ったりとか、そういうのに変わってきちゃうんじゃないかと思うんですよね。そこを何かイベントとか。

○議員 ただね、うち、娘、死んじゃったんだけど、火葬場に入れませんでした、他県から来たから。この秋は抑えろ、抑えろ、抑えろって、みんなかかっているところなんでもう少し我慢しましょう。

○ 石川町はまだ出てない。結局、石川の小学校の子供が来るわけで。ただ、別に県外の人が入っているわけでもないです。正直迷ったんですけれども、やるかどうか。八幡屋さんの社長さんが今年役員として入ってもらってるので、万全を期してやりますっていうことで、じゃあだったらやりましょうっていう形で、今回開催させてもらうんですけれども、もちろん安全対策は、八幡屋さんでも私らとしても、もちろんやるんですけれども、そんなにずっと家に閉じ籠もってられる人いないと思うんですよね。だって、会社行くのも一緒です、そしたら。駄目って、余計県外から来ているかもしれないですし、大きい会社なんかは、小学校だって危ないのは一緒だと思うんです。だから、どうやって付き合っていくかと思うんですね。コロナに対して。

○議員 やらないのは簡単ですもんね。

○ そうです、やらない、何でも、最近そうなんですよ。コロナだからやりません、コロナだからやりません。そんなのばっかで。じゃあ、だったらこれ余るでしょうっていう形にもなってきちゃうと思うんです、何もやらないで。

○ 何か町としてもやってもらいたいですよね。野木沢、自分たちなんですけれども、自治協議会で、今回アンダー50まちづくり事業っていうので30代、40代が集まって地域おこしをしようよっていう活動始めました。先月、町民ニュースに多分載ったと思うんですけれども、それをやろうって言った発起人は自分なんです。20人ぐらい若い人たちが集まってまずは子供たちのためにどうしようか、どういうことをすればいいか。さっき公園ないから、じゃあ自分たちでまず公園造っちゃうべって、野木沢にでっけえ公園造ってやっぺっていう考えで、多分これから動いていくんです。

別な女の人のお母さん方は、駅前にカフェをオープンしました。あれも、去年、おととしぐらいからずっと動いていて、あれもコロナのときにオープンできて、行ってみたんですけれども、結構うまいですし、人もいっぱい結構入っているんですよね。木金土なんですけど、やってるのは。そういうのももっとどんどん町からもアピールしてもらって、やってもらいたい。

○ 駅前だよ。

- 駅前、駅前、ほんとの駅前。
- 野木沢駅前。昔商店あった。
- そこがきれいかって言ったらきれいじゃないけど。趣味程度で始めるような。
- 川のとこのあそこの。
- そうなんです、目の前なんでぜひ来てもらえればなと思うんです。子供たちも少なくなってきたんで、募集、役場の人いるとちょっと申し訳ないですけど、役場の人もめて、子供新聞っていうの作って全世帯配布したり、今度町に配布していこうかなって考えているんですけども、そうですね、子供たちこういうことやってるよ、保育所ではこういうことやってるよ、小学校でこういうことやってるよ、もっと遊び来てよみたいな、こういうところがあるよ、野木沢にはみたいな新聞も作って今度で2号目に、2か月に1回ぐらいのスパンで出していこうかっていう、そういうのを自分たちでこっちは動いてやってるので、町としてもいろいろ協力してもらいたいな。やっぱり町、うちらと民間と行政で絶対ぶつかんですよ、うちらでやりたいけど行政でストップかかっちゃうことが多過ぎて、駄目で、保育所の名前じゃ出しちゃ駄目だよとか。
- 議員 どういう具合でストップかかるわけ。
- 例えば、今回の新聞に関しては保育所の、野木沢保育所の募集になっちゃ駄目ですよとか、そういうことですね。あと人権問題とかもそうですけれども、写真をどこまで載せられるの。中学生まで載せたりとかしてるので、それはどうすんのか。そういうのは結構もめたりとかして。募集になっちゃうのは町としては駄目だよ。
- 議員 どういう理由で駄目なんでしょう。
- なので、うちら野木沢保育所のOBっていう形で、一住民として子供たちがこんな活動してるよっていうのを写真を載せたりとかしてやってますね。そのカフェもインスタにあるので、QRコード載っているの（「へえ」の声あり）ぜひ来てもらえれば。そういうのも町でも、これは全部でも雅洋さんが自分たちにやってくれたことなので。それを今度自分たちが30代、40代、これから人も少なくなってきたらどうしようか、じゃあ自分たちで町に言っても駄目だから、やるしかねえべっていうので動き出したことなので。
- すごいね。
- っていうのがあって。
- 俺たちなんか3人ぐらいしかついてきてくれない。
- 議員 例えば、野小っ子クラブだって定員なんてない、じゃあ放課後 野小っ子クラブつくっ

て面倒見ようかな。みんな地域にアンケート、野木沢、中野は中野でアンケート出して用紙とってアンケート集めてどういう要望、住民の何を望んでいるっていうのを持ってもらって、そこで話し合っつつくっていくから。

○議員 それ、見せてもらって頂いた、私。そのアンケート。

○議員 町も支援してくれた。

○ そういう人が町会議員になっもらうとかね。

○議員 母畑のいい話聞けたけれども、沢田のそういう話。風土みたいなあるのかね。地区によってね。

○ 沢田も結構地域でいろいろやっている。

○議員 沢田もね、やってるよね。

○ 沢田もやっているイメージあるんですよ。

○議員 今、バス乗ってるんですけども、沢田と野木沢つなぐ路線がないのね。まずいなと思うんだよな。認定こども園、沢田とかに造って路線を結んじゃうとか。

○議員 さっき保育士さんの話が出たんですけども、保育士さんの数、話が出たんですけども、なかなか石川で一時期、十何年保育士さんを採用しない時期があったので、だから郡山女子短大の保育科とか、そういう人たちがもう石川は採用しないからといって県外を受けたり、いろいろした時期が一時期あったんですね。それで、今正職の職員を今どんどん、毎年入れていますけれども、石川でこういうこともやってるんですよ。保育士さんに住宅の手当を出してる。保育士さんを確保するために、保育士さんがアパートとか住んだりするでしょう。それに住宅手当を町独自でも出していると、そういう事業もやってるんです。だからそういうのも保育、幼児保育、子育て支援の広い範囲で見ると、そういう点から、1つの例ですけども、結構やってるんですよ。そんなこともあります。案外知られてないかもしれないんですけどね。やってるんです。

今日はちょっと皆さんに幼児保育、子育て関係のお話をいろいろ、もっと広い範囲まで行ってしまいましたけれども、本当に私たちもこういう話を皆さんから聞けて、大変有意義な会だったなと思っておりますし、またやりたいなって、いつかね、思っております。さっきも申し上げたように、青年会議所だったり、いろんな分野の方たちとこういった小規模で本当にフリートーキングで本音を話すという機会を持っていきたいと思っておりますので、また一つよろしくお願ひしたいと思ひます。

どうですか、皆さん、これだけは言っておきたいっていうの、ありませんか。町としても、

職員もそうだし、町長も副町長もそうでしょうけれども、やっぱりこういう若い人の声、住民の皆さんの本当に赤裸々な声を聴きたいし聴くべきなんですよ。聴くべきなんですよ。ですから、こういった機会は本当に大事にしていきたいと思ひますし、役場にも町長室にも気軽に入つていって、対話の日なんかにもどんどん皆さん出向いていってお話をさせていただいたら、ありがたいと思つております。

今日も、私たちがざつぱらんにいろいろしゃべっちゃつたんですけど。

○議員 今日楽しかったですよね。

○議員 そうです。皆さんの御感想は。何だ、あんなのならもう行かぬなんて言われちゃうかもしれないですけども。まだ言い足りないことはないですか。

○ 俺らは何年生きるか分からないからね。任せるしかない。

○議員 そうなのね。

○議員 あんたらの世代を一番考へて我々はいるわけだし。

○議員 議員にもどんどん出てほしいです、若い人にね。頑張ってください。

○議員 やっぱり議員になつても普通の人だからね。みんなと同じ若いときはいろいろやつて苦勞して。苦勞もあつたけども。

○ いろいろ雅洋さん、地元の議員が保育所とか役場で言い合つたりすると、これどうなんですか。聞いて行って、仲介役で結構動いてもらつてる、自分。

○議員 何かあつたらまた頼んだほうがいい。

○ そうですね。

○議員 案外、經由したほうが楽かもしれない、町会議員。

○議員 それでは、皆さん。9時になりますね。（「意見がなければ」の声あり）

では、あと意見がなければ終わりにしたいと思いますけれども、よろしいですか。

それでは、長時間にわたりまして、本当に貴重な身近な生の声を聞かせていただきましてありがとうございます。また、機会があつたらぜひお話を聞かせていただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。今日は本当にオリンピックでテレビを見たいところでしたのですが、お集まりいただき本当にありがとうございます。また、よろしく御指導のほどよろしくお願ひいたします。私たちが本当に議員にもどうぞ何でもおっしゃつていただいて、そしてまた叱咤激励をしていただけたらありがたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。本日は遅くまでありがとうございました。

○議員 御苦勞さまでした。どうも。

○議員 お帰り、どうぞ、足元お気をつけになってくださいませ。